

# JHAT 活動基本方針（案）

平成 27 年 12 月  
日本災害時透析医療協働支援チーム (JHAT)  
日本血液浄化技術学会災害対策委員会  
日本腎不全看護学会リスクマネジメント委員会  
日本臨床工学技士会災害対策委員会  
日本透析医会災害対策委員会

---

## 主な内容

1. 設立趣旨
  2. JHAT の組織構成
  3. JHAT における主な役割分担と発災時の活動
  4. 災害支援ボランティア
  5. 支援物資供給センター
- 

### 1. 設立趣旨

2011 年 3 月 11 日金曜日といえば、誰もが「東日本大震災」（以下、3.11）が起きた日であることは記憶されている。しかし、1995 年 1 月 17 日火曜日と聞いて「阪神淡路大震災」を思い浮かべる人が、今、どれほどいるであろうか。

人の記憶は曖昧といわれるが、阪神淡路大震災の経験は、16 年後に起きた東日本大震災に確かに活かされ、特に日本透析医会災害時情報ネットワークによる災害時情報伝達は、医療界、産業界による迅速な支援活動に大きく寄与したことに異論があるはずもない。災害時における透析医療には、このような情報ネットワークが必須の機能であることが証明されたのである。

現在、東南海地震が危惧されており、その被害規模は、3.11 における約 2 万人の死者・行方不明者に対し、最大 32 万人に及ぶと予想されている。3.11 での成果がそのまま通用するとは誰もが考えていないはずであり、むしろかつての体験を更なる大災害に備えなければならないとの思いであろう。3.11 における貴重な体験を次の災害に活かすことは、不幸にして命を落とされた約 2 万人の犠牲者に対する報と考える。

今回、透析医療における災害時情報網をさらに拡大し、縦横無尽の情報共有と活動を目指し「日本災害時透析医療協働支援チーム JHAT (Japan Hemodialysis Assistance Team in disaster)」を設立した。

ここに JHAT の活動内容を報告すると共に、関係各位の賛同、協力をお願いする次第である。

JHAT は、

- 1) 災害時透析医療において、日本透析医会災害時情報ネットワークによる災害時情報伝達システムを最大限に活用する
- 2) 構成団体は、日本透析医会、日本臨床工学技士会、日本腎不全看護学会、日本血液浄化技術学会及び、本提案に賛同する透析医療関連協力団体（企業）とする。
- 3) 災害時における透析医療の支援活動がより迅速、円滑に行われるための情報コーディネーター、支援コーディネーターによる情報収集活動を行う。
- 4) JHAT という名称のもと個人の職種、氏名を明示し、被災地における不審者と見なされることなく積極的な活動を可能にする。

などにより、被災地への支援、ボランティア活動、物流の整備・調整などへの対応が迅速円滑に行われるよう関係団体との協働が主な目的である。

以降、本論では、活動の基本方針について概要を説明の上、各関係団体との意見交換により、充実した透析医療災害協働支援チームの活動を目指したい。

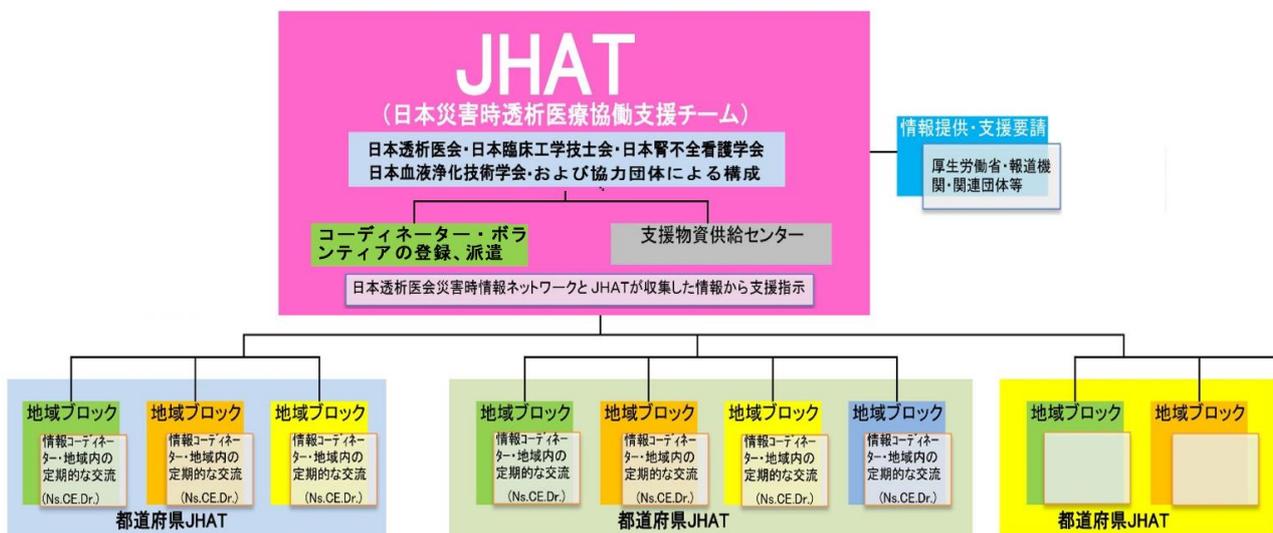
## 2. JHAT の組織構成

### 1) 構成団体

構成団体の中心を日本臨床工学技士会(災害対策委員会)、日本腎不全看護学会(リスクマネジメント委員会)、日本血液浄化技術学会(災害対策委員会)などの実働的団体および日本透析医会とし、従来からわが国で構築されてきた透析医療における災害時情報ネットワーク災害時情報伝達方式を有効に活用するために強固な連携を構成、維持する。

また、JHAT の活動に賛同する透析医療関連団体および企業を協力団体とし、厚生労働省をはじめとする行政と JHAT の協力態勢を確立する。

### 2) 組織構成図



## 3. JHAT における主な役割分担と発災時の活動

### 1) 本部

災害発生時に JHAT による支援活動が必要と判断された場合は、本部機能を下記に設置し対応にあたる。JHAT 支援活動の必要性は、各情報コーディネーターによる情報をもとにコア 4 団体における緊急協議のうえ迅速判断を行い支援開始となる。

本部：〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野 1030

神奈川工科大学 K4 号館 407 号室

TEL：046-291-3069

FAX：046-206-0299

Email：

### 2) 情報コーディネーター

#### (1) 役割

被災地の情報を中心に、発生した災害に関する知り得る情報を日本透析医会災害時情報ネットワー

クマーリングリスト「joho-ML」を用いて情報共有する。

被災地外の情報コーディネーターであっても、必要と思われる情報は積極的に提供する。

## (2) 登録

日本透析医会災害時情報ネットワーククマーリングリスト「joho-ML」に登録する。本クマーリングリストは2000年の開設以来、これまでに発生した大規模災害時を中心に活動実績を持ち、JHAT活動における情報共有ツールとしても登録者（情報提供者）を増員し引き続き活用していく。

登録に関する現況は以下のとおり。

- ・ 日本透析医会  
日本透析医会会員施設担当者（医師を中心に）を登録済みであり、引き続きこれまでの災害発生時情報共有活動を継続する。
- ・ 日本臨床工学技士会  
47都道府県臨床工学技士会の災害対策担当者（2～3名）が登録済みである。
- ・ 日本腎不全看護学会  
日本臨床工学技士会と同様に、各地域の看護師担当者の登録作業を今後進めていく。
- ・ 日本血液浄化技術学会  
会を中心的に構成する職種が臨床工学技士であり、日本臨床工学技士会登録者と重複するため、地域担当者の登録は行わない。
- ・ その他の医療関係団体・企業  
JHATの活動に賛同する協力団体の医療関連企業および関連団体への登録を求める。
- ・ 行政関係  
厚生労働省健康局疾病対策課等中央行政担当者及び各都道府県行政担当者（47都道府県すべて）が登録済みであり、クマーリングリストにあげられた情報は直接行政に届けられている。

## 3) 支援コーディネーター

### (1) 役割

有事の際、支援コーディネーターが迅速に被災地へ出向き情報を収集し、被災情報を本部に伝達する役割を担う。

支援コーディネーターは、現在居住あるいは勤務している地域での登録以外に地理に詳しい都道府県を情報として登録し、発災早期に地理に詳しい被災地透析医療施設の状況、医療現場のニーズを調査し、本部へ報告する。情報は、支援物資やボランティアなどの支援体制を調整するために活用する。

今後の展開として、登録された支援コーディネーターを中心に都道府県JHATを組織する。

### (2) 登録

臨床工学技士登録者は日本臨床工学技士会、看護師登録者は日本腎不全看護学会を通じて各都道府県単位で登録する。（登録作業は鋭意準備中）

これらの登録者が被災地に赴く際の保証制度（保険等）は、登録作業と並行して整備する。

## 4) 各協力団体、企業の役割

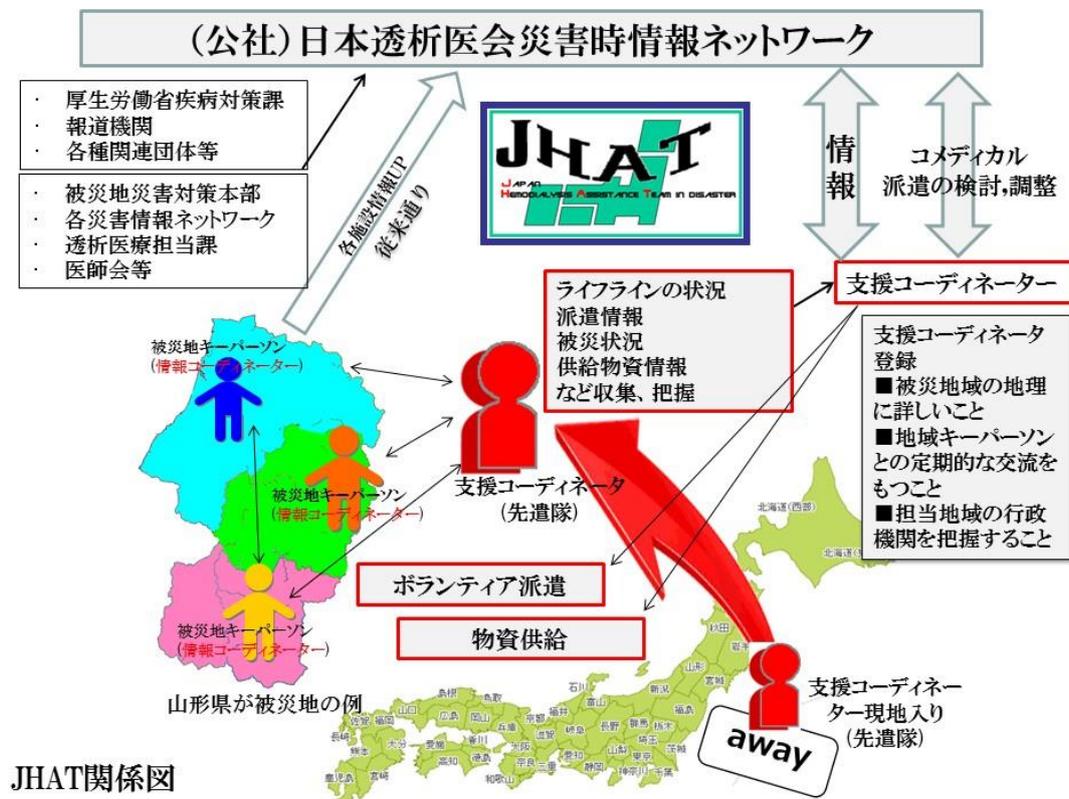
本活動は、血液浄化関連の広い領域を横断的な協力態勢で構築することが望ましく、本キックオフミーティング後において、以下のような団体へ協力を求める予定である。

- 日本透析医学会
- 日本急性血液浄化学会
- 日本看護協会
- 日本腎不全栄養研究会
- 日本医療機器テクノロジー協会

日本製薬工業会  
他

### 5) 災害発生時の行動概略

本部はメディア報道及び情報コーディネーターからの情報を集約して被災地域を特定する。  
該当する被災地域及び被災地周辺地域の支援コーディネーターの複数グループを被災地に派遣。(1グループは2~3名で構成)  
派遣された支援コーディネーターはグループ間で連絡を取り合い、現地のキーパーソンに接触して被災情報を得る。  
得られた情報は本部へ報告し、本部は「joho-ML」へ報告するとともに支援物資及び支援ボランティアニーズを調整する。  
派遣された支援コーディネーターは情報収集を主目的とするが、業務支援が緊急的に必要になった施設に遭遇した場合、可能な範囲でこれに協力、支援にあたることもありえる。



JHAT関係図

## 4. 災害支援ボランティア

災害時において透析治療に直接関与するメディカルスタッフは、派遣先の透析装置、器材などについての操作に熟知しておく必要があり、このような事情に留意した派遣に努める。

### 1) 派遣

ボランティアが必要となる場合は、災害時支援要請依頼書フォーマットにより JHAT へ要請する。JHAT は要請内容の確認および要請元との協議を行い、透析室への業務支援をコーディネートし、登録されたボランティアを計画的に派遣する。

### 2) ボランティアの登録

ボランティアは、コア 4 団体を中心に随時募集することとし、必要事項を申告のうえ、JHAT に登

録される。JHAT ボランティア登録者には、JHAT 隊員としての標榜を可とし、ネームカードを発行する。

【登録に際しての必要事項】①氏名、②所属施設名、③所属都道府県、④施設電話番号、⑤施設メールアドレス、⑥携帯番号、⑦携帯メールアドレス、⑧操作可能な装置（メーカー名、機種名）、⑨可能な業務範囲（プライミング・穿刺等）、⑩施設長の許可の有無、など。

### 3)教育・研修

JHAT は、災害時支援活動についての研修会を企画・運営を行う。

### 4)災害時協働支援活動における傷害保険

ボランティア保険、他

## 5. 災害時支援物資供給センター

3.11 の災害時は、日本臨床工学技士会事務局会議室に災害時支援物資供給センターを開設した実績がある。現在、関東地方においては日本臨床工学技士会事務局、神奈川工科大学を候補とし、その他北海道・東北、関西、九州地区などに開設候補を検討中である。

ネームカードデザイン（例）

 <p><b>JHAT</b> Japan Hemodialysis Assistance Team</p>	 <p>日本災害 透析医療協 会</p>
<p><b>愛知県</b> 所属 <b>知邑舎</b> <b>メディカルサテライト岩倉</b> 氏名 <b>長尾 尋智</b></p>	<p>■本部: 〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030 神奈川工科大学K4号館407号室 TEL: 046-291-3069(direct line) ■災害派遣中JHAT緊急連絡先:</p> <p><b>【本人に関する情報】</b> JHAT登録番号: CE-J007-S005-P001 氏名: 長尾尋智(NAGAO HIROTOMO) 生年月日: 1945年1月1日 血液型: アレルギー歴: 自宅住所: <b>私に事故が起きた際は、下記まで連絡をお願いします。</b> ■個人緊急連絡先 ①氏名 本人との関係 電話番号 携帯メールアドレス ②氏名 本人との関係 電話番号 携帯メールアドレス</p>

以上